

高等教育機関におけるICT活用教育

文部科学省
高等教育局 専門教育課

■ ICT活用教育（高等教育段階）

・教育再生実行会議

（平成27年3月4日 第六次提言より抜粋）

社会人が、24時間いつでも学び、キャリアアップを図ることができるよう、大学等は、e-ラーニングを活用した教育プログラムの提供を推進する。特に、放送大学において、資格関連科目の増設や、オンライン授業科目の開設、スマートフォン等での視聴への対応等を行う。また、単位互換制度の活用を通じた他の大学等への多様な科目の提供を進めるとともに、更なる学習者への支援策について検討を行う。

（平成27年5月14日 第七次提言より抜粋）

国は、民間とも連携し、基本的共通的な教育内容についての学習動画など教材のデジタル化や、インターネット上での提供を進める。また、教科書のデジタル化の推進に向けて、教科書制度の在り方や、それに応じた著作権の在り方などの課題についての専門的な検討を行う。

大学は、アクティブ・ラーニングの推進など、多様な教育の提供や学習環境の向上を図るため、MOOC（大規模公開オンライン講座、Massive Open Online Course）の戦略的な活用を進める。

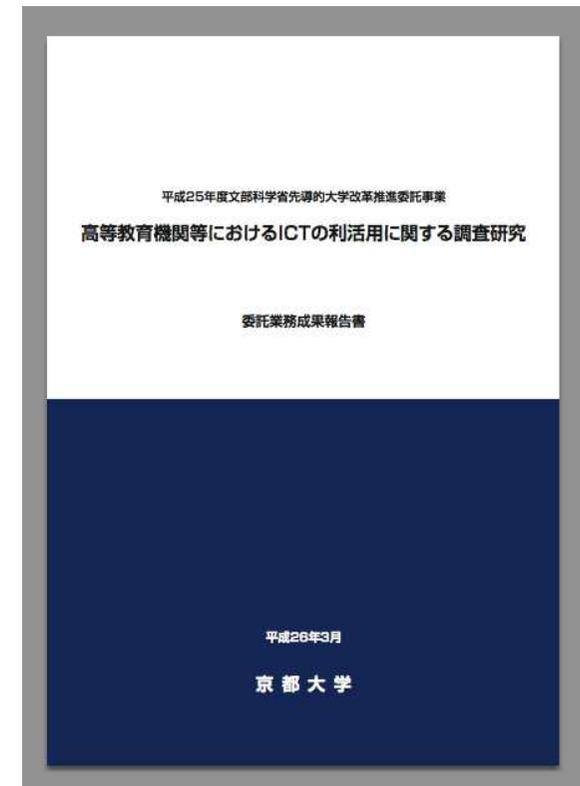
■ ICT活用教育（高等教育段階）

・第2期教育振興基本計画（平成25年6月14日閣議決定）

……ティーチング・アシスタント等の教育サポートスタッフの充実，学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化，ICTを活用した双方向型の授業・自修支援や教学システムの整備など，学修環境整備への支援や，基本施策17の学生に対する経済的支援も連動させながら促進する。ICTの活用に関しては，例えば，近年急速に広まりつつある大規模公開オンライン講座（MOOCによる講義）の配信やオープンコースウェア（OCW）による教育内容の発信など，大学の知を世界に開放するとともに大学教育の質の向上にもつながる取組への各大学の積極的な参加を促す。あわせて，学生の思考を引き出す教科書等の教材や教育方法の開発・研究など，教育に関する特色ある自発的な取組を支援する。

大学におけるICT利活用の状況

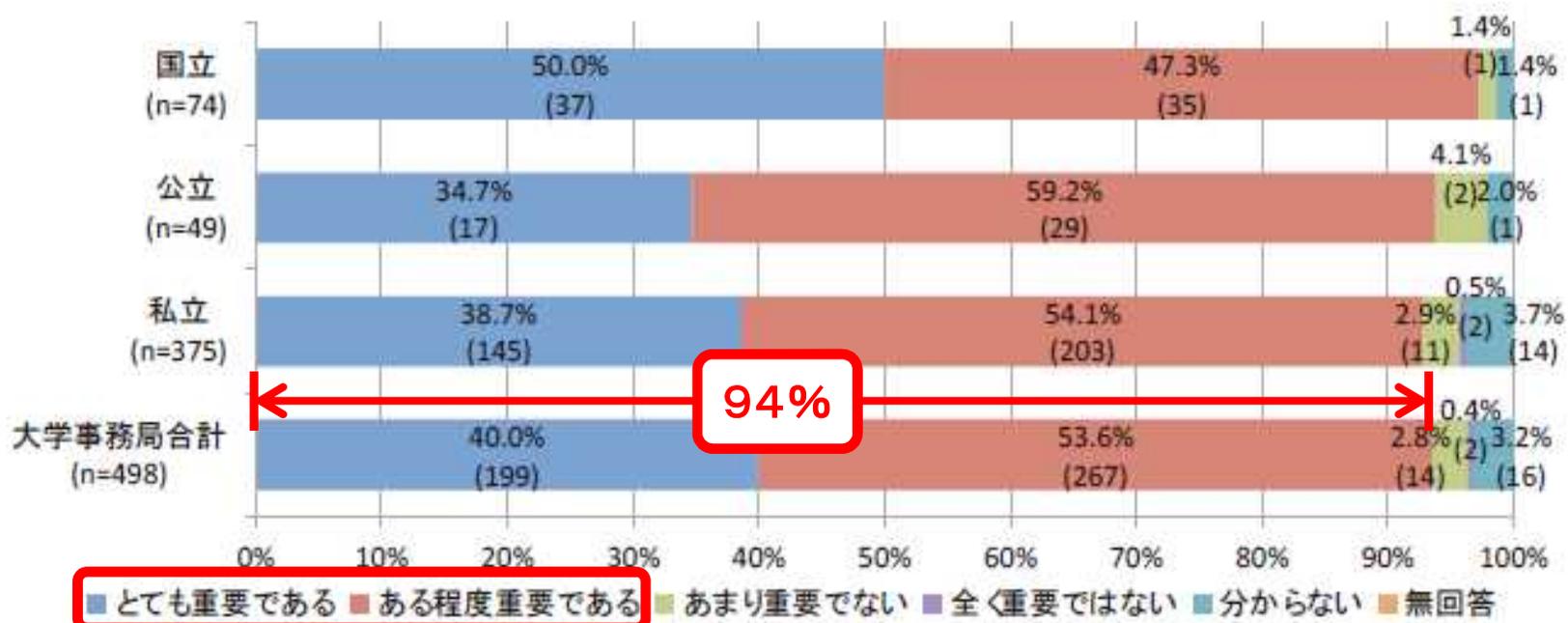
平成25年度 先導的大学改革推進委託事業
「高等教育機関等におけるICTの利活用に関する調査研究」
の結果から



http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1347642.htm

■ eラーニングまたはICT活用教育の重要性

・94%がeラーニング・ICT活用教育を重要だと考えている



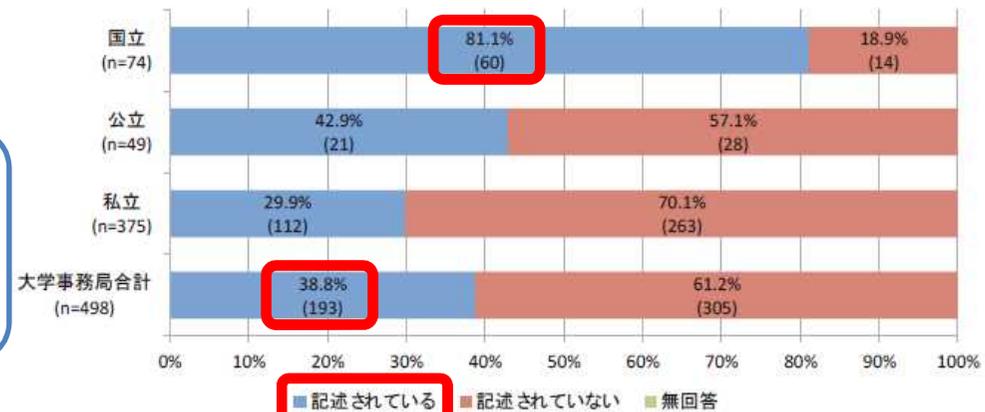
Q:eラーニングまたはICT活用教育を組織として重要と考えているか。

組織のビジョンや中期計画等への記述

・大学はICT活用教育を重要と捉えており、組織ビジョンやアクションプラン、中期計画に記述することで実施に向けた影響力があることを認識している

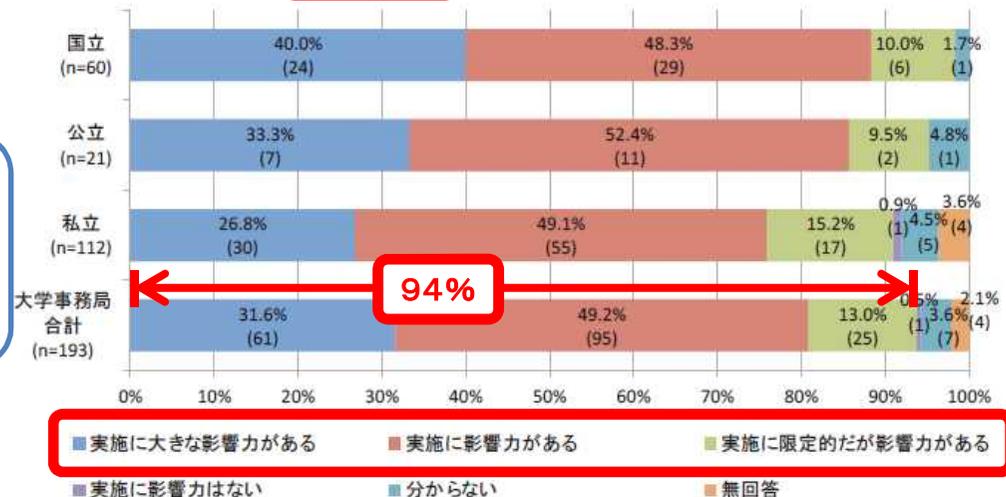
(1) 組織ビジョン・中期計画等への記述

Q: eラーニングまたはICT活用教育の推進が組織ビジョンやアクションプランや中期計画に記述されているか。



(2) 組織ビジョン・中期計画等の影響力

Q: 貴学の組織ビジョンやアクションプランや中期計画の内容は、eラーニングやITC活用教育の実施に向けてどの程度影響力を持っているか。



■ ICTツールの利用目的

・授業支援を目的とした内容が目的の上位となっており、アクティブラーニング型授業で想定される項目はやや低い状況

◎ICTツールの利用目的(上位5項目)

- ・授業に関する教材の提供(82%)
- ・学務情報の伝達(78%)
- ・レポートの提出(75%)
- ・学生・教員間のコミュニケーション(73%)
- ・授業外学習に対する支援(71%)

授業支援を目的とした内容が目的の上位となっている。

<アクティブラーニング型授業で想定される項目の状況>

- ・学生間のコミュニケーション(59%)
- ・学習者間のグループ活動による学習(58%)
- ・授業中の投票(38%)

回答率はやや低い状況

■ ICT環境の導入状況

・情報インフラの導入・普及は進みつつあるが、教授学習に直接かかわる環境整備や活用が遅れている

◎導入率が比較的高い項目例

- ・シラバス公開(88.6%)
- ・キャンパス内の無線LAN(78.7%)
- ・履修登録システム(74.9%)
- ・学生情報システム(SIS)(63.1%)

情報インフラの導入・普及は進みつつある

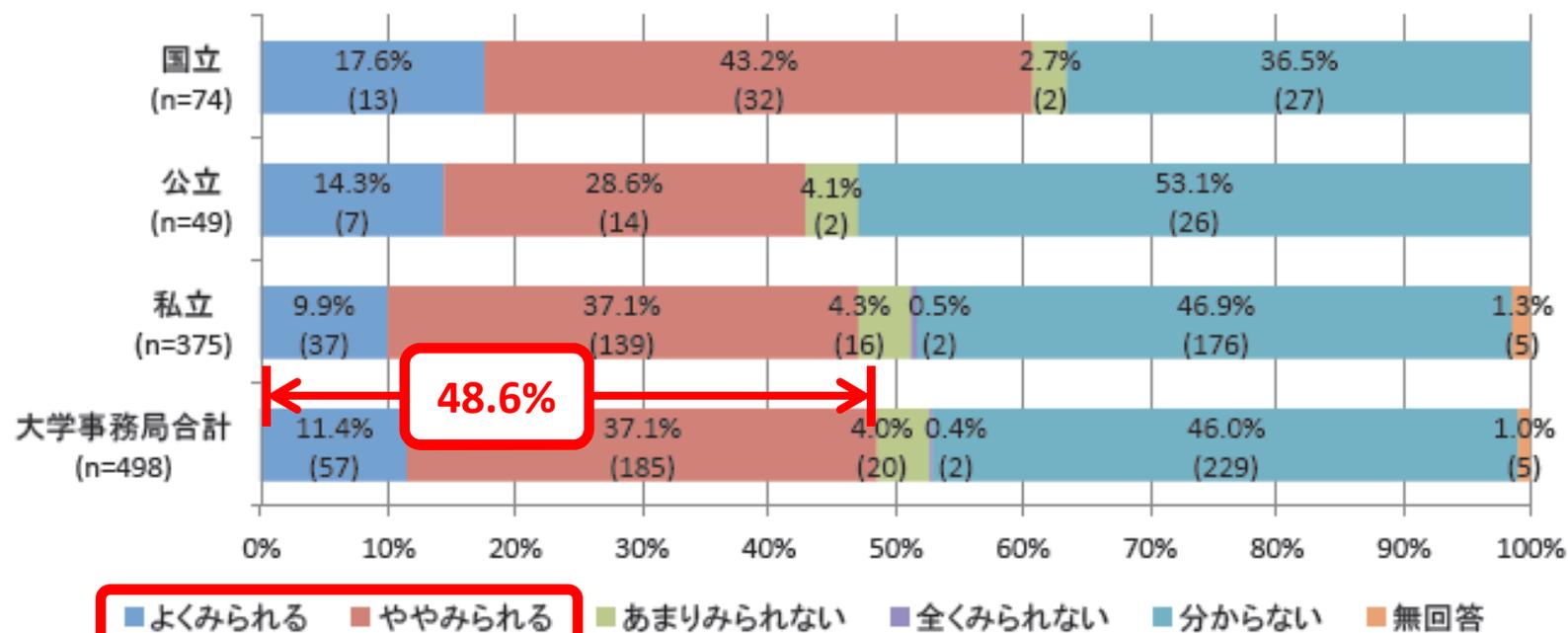
◎導入率が低い項目例

- 電子教科書の作成・提供(3.8%)
- 講義教材・ビデオの一般公開(11.2%)
- eポートフォリオ(学習支援)(25.5%)

教授学習に直接かかわる環境整備や活用が遅れている

■ ICT活用教育の導入による効果①

・半数が効果がみられると回答



Q:ICT活用教育の導入による効果の有無

■ ICT活用教育の導入による効果②

・ICT活用教育の導入は、学生に対して便利な環境の提供や、学習効果の向上に寄与するが、一方で、アクティブラーニングやPBL型授業など近年の高等教育施策で注目されている項目とのリンクは不十分な状況

◎ICT活用教育の導入による効果 ()は「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した機関の割合

- ・学生に対してより便利な環境の提供ができるようになった(95%)
- ・学生の学習効果が向上した(77%)
- ・教育の質が向上した(68%)
- ・学生の学習意欲が向上した(66%)
- ・学外学生に対する学習リソースへのアクセスが向上した(65%)
- ・教員の作業を効率化できた(57%)
- ・授業外学習時間が向上した(54%)
- ・外部の有用な教材・コンテンツを活用できた(50%)
- ・アクティブラーニング型授業が増加した(42%)
- ・PBL型授業が増加した(35%)
- ・学生の修了率が向上した(29%)
- ・単位互換など他大学との連携ができた(26%)
- ・予算コストが削減できた(25%)
- ・対象学生層が拡大した(24%)
- ・競争力や知名度が向上した(18%)
- ・より多くの受験生・留学生が獲得できた(13%)
- ・幅広い教員を獲得できた(12%)

ICT活用教育の導入は、学生に対して便利な環境の提供や、学習効果・学習意欲の向上や教育の質の向上に寄与する

アクティブラーニングやPBL型授業など近年の高等教育施策で注目されている項目とのリンクは不十分な状況

■ まとめ – ICTツールの利用目的、導入状況

・ICTツールの利用目的は、「授業に関する教材の提供」「学務情報の伝達」といった教材や情報の学生への一方的伝達を目的とした項目が上位であった。

・一方、アクティブラーニング型の授業で想定されるような「学生間のコミュニケーション」「学習者間のグループ活動による学習」「授業中の投票」の項目の回答率は相対的に低く、今後は授業内外でのICTツールの効果的な利用を促すことが必要。

・また、情報インフラの導入・普及は進みつつあるが、教授学習に直接かかわる環境整備や活用が遅れており、今後は、ICT環境の導入に留まらず、導入後、高等教育においていかに活用していくのかについての運用面の強化が必要。

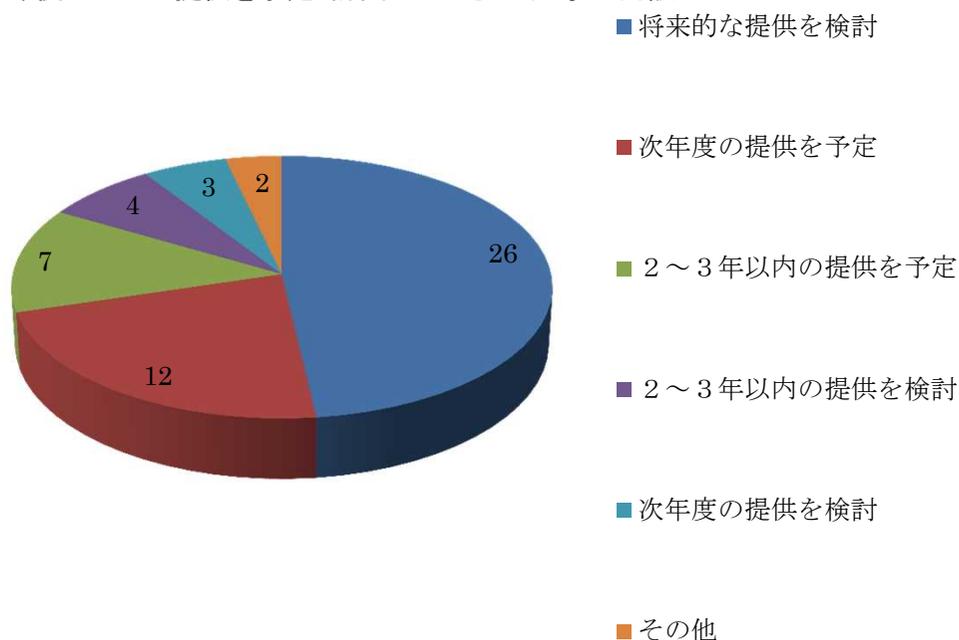
■ まとめ — ICT活用教育の導入による効果

- ・導入効果について、肯定的な項目として最も回答率が高かったのは「学生に対するより便利な環境の提供」であった。
- ・一方、「アクティブラーニング型授業が増加した」「PBL型授業が増加した」などはそれほど回答率は高くなかった。
- ・これらの近年の高等教育施策で注目を集めている事項がICT活用とうまくリンクしていない可能性もあり、両者を結びつけるような教育実践の成功事例の提示等も効果的であると考えられる。

MOOCコンテンツの提供の状況

・現状では、MOOCコンテンツを提供する大学は一部に限られている状況。

<今後MOOCの提供を予定・計画している54大学の内訳>



・現在MOOCコンテンツを提供している大学: 19大学

・今後MOOCコンテンツの提供を予定・計画している大学: 54大学

※平成27年3月時点

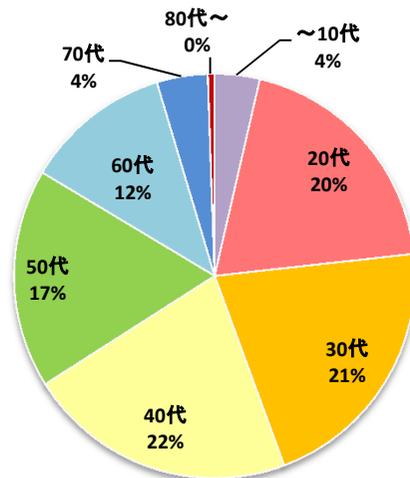
■ JMOOCの状況

JMOOC（日本オープンオンライン教育推進協議会）

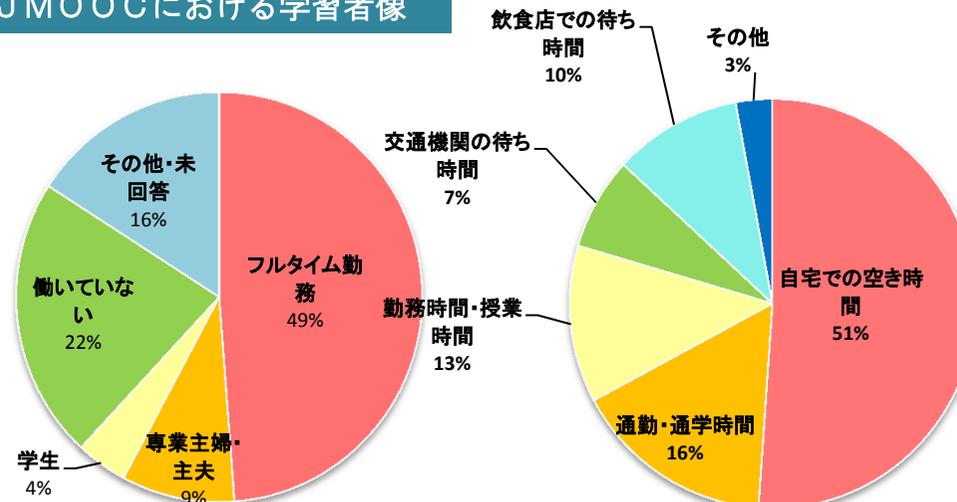
- 目的： 日本版MOOCの普及・拡大
- 設立： 平成25年11月
- 提供科目数： 53講座(平成27年4月現在募集を開始しているもの)
- 参加大学数： 38大学(平成27年3月末時点)
- 登録者数： 約12万人(平成27年3月末時点)

※ JMOOC調べ

JMOOCにおける学習者像



①登録者の年齢層



②登録者の職業

③学習時の状況

■ JMOOCの状況

- JMOOCの利用者は年々増え続けている。

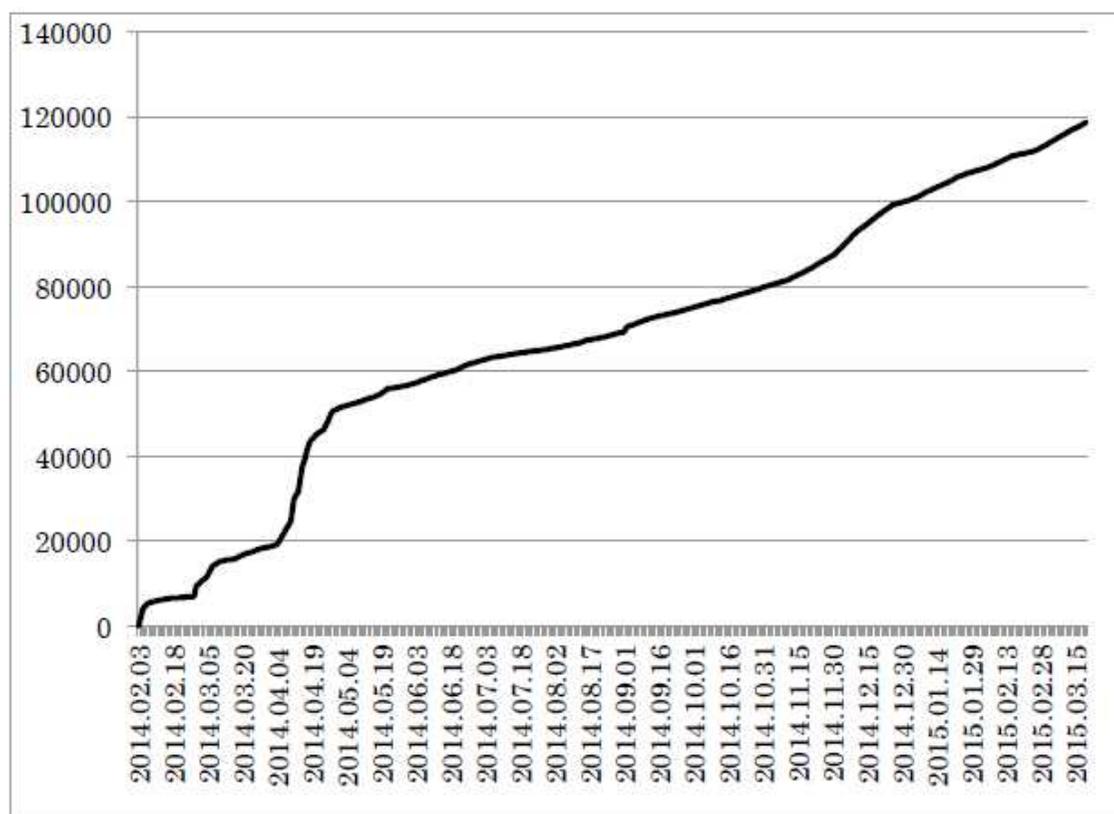


図 3-9-3 JMOOC 登録受講者数の推移